

《今朝の聖書から》今日の聖書箇所は『創世記』からです。神様は、預言やイエス様の言葉、そして清められた、あるいは癒された人々の経験を通して、“神の国”について“如何に私たちがその御国にのぞみをおくべきか”を語っています。また未来のことも記録されていますし、私たちにはもうおぼろげになってしまった、天地創造にはじまる神様の造られた歴史についても、教えてくれています。今日のキーワードは“契約”です。普通契約といいますが、交渉の結果を整理したものを言いますが。私たちは神様とあれこれ、その内容について、検討したわけではありません。今日の聖書箇所にも契約という言葉が出てきます。9：9で“わたしはあなたがた及びあなたがたの後の子孫と契約を立てる。”と書き始められています。契約は、私達はその内容について、どう思うかということとは関係なく、神様が一方的に結ばれるのです。ですから、“契約をたてる”とか“契約をおく”という言葉の方が適切かもしれません。そして旧約・新約聖書全体は“救いに関する契約の書物”なのです。9：13～14に“すなわち、わたしは雲の中に、にじを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる。わたしが雲を地の上に起すとき、にじは雲の中に現れる。”とあります。これが“しるし”だということです。9：15に“こうして、わたしは、わたしとあなたがた、及びすべて肉なるあらゆる生き物との間に立てた契約を思いおこすゆえ、水はふたたび、すべて肉なる者を滅ぼす洪水とはならない。”とあります。思い出すのは神様の方で、私たちは、しるしを見るたびに、いま神様が私たちと共におられ、“二度と滅ぼされるようなことはしない”とご自身仰ったことを思い出しておられるのだ、ということを知るのです。イエス様も“契約のしるし”とご自身のことを説明しておられます。“繰り返して記念しなさい”と仰っています。主の晩餐の言葉です。“またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」とルカ22：19にあります。記念して思い出し続けないと、主の守りを忘れるのです。

週報

2006年 11月 5日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
テレフォン・メッセージ	0543-49-0604	
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎0543-45-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸